

☆ポイント説明☆

① まん中に大きな木。

この木はどんぐりの木です。名前はマテバシイ。大房にあるマテバシイは、人の手によって植えられたものです。実(どんぐり)は、なんと煎って食べることができます。枝は、海苔の養殖用としても使われています。常緑樹です。



② レンガでできた丸い場所

きれいな花をさかせる「かだん」になっているこの場所は、実は昔の砲台あとです。丸い土台の中央に「カノン砲」と呼ばれる遠くまで砲弾をとばせる大砲が置かれていました。



③ コンクリートのトンネル

この中には弾薬庫の跡があります。実は近くに砲弾を打ち出す砲台があり、弾薬がこの中に保管されていました。60年以上も前の建物ですが、とても頑丈にできています。暗がりの中になにか生き物がいるかもしれませんね。



④ 島が浮かんでいます。

昔むかし、増間村(今の三芳村)に大雨が降り、川の中の島が流されてしまったそうです。村人が総出で川伝いに島を探し、とうとう海まで探したところ似た様な島を見つけました。引いて帰ろうとしたが動かず、「増間島」と名づけ、村に引き上げました。



⑤ そら空をみあげてみよう。

大房岬は海に囲まれ、温暖で緑豊かな環境のために多くの鳥が生息しています。印象的な鳥はトビ。上昇気流を利用して輪を描くように滑空し、羽ばたくことは少ないです。ピーヒョロロロ...という鳴き声が有名な、日本で一番身近な猛禽類です。



⑥ 四角い通路の先には・・・

探照燈格納庫跡があります。昭和初期、夜の東京湾に侵入する敵の軍艦を見張るための照明が2基、この奥に据え付けられていました。やがて第2次世界大戦が始まりましたが、世はすでに航空機の時代となっていて、出番はなく終戦を迎えました。



☆ポイント説明☆

⑦ いけ 池があります。

ここは大房岬の中心部になります。降った雨が地面の中を伝わり、集まって湧き水となって池となりました。どんな日照りの年でも、枯れたことのない湧き水は、大房岬の名水として長い間、親しまれ、利用されてきました。



⑧ はつでんしょしせつ 発電所施設??

岬の中の要塞跡地の一つです。軍事施設の中には探照灯という施設があり、大きな電力が必要でした。ここはそのための発電所でした。発電機はドイツ製で、50馬力のディーゼルエンジンが使われていました。



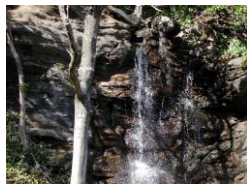
⑨ かわ ちか 川の近くをよーく見て。

アカテガニがいるかもしれません。海岸近くの林や土手、草むらなどに巣穴を掘って生活しています。夏の大潮の夜の満潮時に、メスは波打ち際で産卵をしに海辺に集まります。雑食性で、植物、動物ともによく食べます。



⑩ たき どこかに滝があります。

不動滝と呼ばれ、上流にある尽きることのない湧き水が水源です。嘉吉元年(西暦1441年)4月16日、結城の戦いに敗れた里見義実が、三浦半島から逃げる途中、この滝の水に打たれて身を清め、不動尊に武運を祈願したと伝えられています。



⑪ すなはま 物のさが 砂浜ですてきな物探し。

館山湾には黒潮の影響を受けて、様々な漂着物が流れ着きます。この砂浜(タイマイ浜)は磯に挟まれ、多くの貝が打ちあがるポイントとして知られています。すてきなものを1つ探してみましょ。



⑫ かいしょくがけ 海蝕崖がみえます。

大房岬の地層は、約1千年前の火山の噴火により火山灰が海底に堆積したものです。その後隆起し、海蝕により今の姿となりました。岬の南側(この場所)は南から北に傾き、北側は反対に北から南に傾いています。地層が斜めに向き合う構造は中央部が硬くなりやすいため、岬や山になりやすいです。

